

Zero
Otoemon-ayahiro SUMI

Zero / Otoemon-ayahiro SUMI

01. Response	5:11
02. Zero	5:58
03. Reincarnation	6:54
04. Kokoro	7:14
05. Barcarolle	6:17
06. Empyrean Sphere	4:45
07. Requiem For Quiet	6:52
08. Eternity	4:40
09. Cloudy	6:53
10. Reunion	5:00
11. Requiem For Quiet - Piano ver.	6:42
12. Empyrean Sphere - Piano ver.	4:43

Composed, Performed, Programming, Recording, Mix,
and Produced

by : Otoemon-ayahiro SUMI

m-note RECORDS

Zero / Otoemon-ayahiro SUMI

ゼロ / 鷺見 音右衛門文広

[Self - Liner Notes]

Zero - ゼロ。2023年リリース。全12曲からなるアルバム。ゼロへの回帰、あるいはゼロからの出発。ゼロには様々な立ち位置があり、含まれる意味合いも、解釈する意味合いも様々である。人の捉え方、感じ方によって変化もするが、ゼロからの視点から考えれば何も変わらず、ただゼロのままである。人が生まれ、時を刻み、やがて死んでいく。その出発点も終着点もゼロそのもの。今の時代を繊細に感じてもらえ、自ずと出てくるそれらの尊い感覚。感情をコントロールするには欠かせない感覚であり、留めておかなければならない思考なのかも知れない。自分がぼんやりと雲を眺め休息をしている時。別な場所で異なる雲を見ている人々には休息などないのかも知れない。ゼロへの恐怖やゼロへの喜びを感じながら前へ進み続けているのだろう。そう考えれば自分も前へ進まなければいけない。行き先などこだわらない。自らの信じるゼロの在り方を感じていれば、自然とゼロへと導かれるのだから。

01. Response / レスポンス / 5:11

偶然に見つけたチェロのスケッチ。じっと見つめ頭で鳴らしていた所、一つのアイデアがひらめく。旋律自体が持ち合わせていた魅力にとりつかれたかの如く、そのまま何も考えずただひたすらに音を書き、同時にレコーディングを行いながら、1時間ほどで作り上げた。スケッチの重要性は、備忘録目的ではなく、音の持つ魅力の保持にある。それを思い知らされた。

02. Zero / ゼロ / 5:58

美術作品のために書き上げた曲。漆黒で、不思議なラインを持つその作品は、美しさそのもの。そして恐ろしいまでの緊張感と解放感が同時に存在している。それらの感覚を全身で捉え、一度きりの即興レコーディングを行うことにより、その緊張感と解放感を表現する事を思いつく。ピアノを弾き終えた後、緊張感からの解放からか、手が震えていた。以前お聞きした、利体の茶会のお話を思い出した。

03. Reincarnation / リンカーネーション / 6:54

ポリリズムのモチーフを元に、繰り返し、変容しながら時を刻んでいくようデザインし作り上げた。書き終え、レコーディングも終えた朝、ぼんやりと朝の空を眺めながら休息をしていた。その後ふと見たニュースで、最も尊敬する音楽家の悲報を知る。涙が止まらなかった。そして感謝の気持ちでいっぱいになった。生まれ変わった時、またお会い出来る事を夢見つつ、このタイトルをつけた。

04. Kokoro / ココロ / 7:14

美術作品のために制作した曲。優しさあふれる懐の深いお心。それが作品自体に表現されていた。それを感じピアノの前に向かい、目を閉じ鍵盤に手を置き、ただなんとなく押し出て来た音。それがとても優しく感じられ、その音を元にそのまま曲を作り上げていった。最近の自分の創作スタイルとして、考えすぎず感覚そのままに表現する、というものがある。この曲もそうして作られた曲。

05. Barcarolle / バルカロール / 6:17

とある夏の暑い日。娘が作業中の私の部屋へ突然入ってきた。何をやるわけでもなく、ただ床に座って私の音を聞いている。そのまま気にする事なくしばらく作業に集中していた。その後ふと目を向けると、娘は舟を漕ぎ始めていた。その様子がとても尊いので、ピアノの音で起こしてみようとした。しかし逆効果であった。音を聞きながらすっかり寝ってしまった。その時に演奏した音がこの曲の原曲である。夏の日の香りと共に思い起こされる感覚。

06. Empyrean Sphere / エンピリアン・スフィア / 4:45

プラネタリアム作品のテーマ曲として制作した曲。このプラネタリアムの作品は、コロナ禍の中上映を開始されたものの、10万人を超える方々に鑑賞をして頂いた。その後、vol.2としての作品も作られ、そちらにもこの曲は使用して頂いている。およそ1日の半分の時を堪能させてくれる星々は、多くの物語を作り出し、悠久の時を越えて、現代もなお人々の創作に関与し続ける。尊い存在である。

07. Requiem For Quiet / レクイエム・フォー・クワイエット / 6:52

深き海の底に眠る多くの尊い魂。その魂や精霊のために鎮魂歌として創作したこの曲。元々は、展示会用BGMとして委嘱され制作された曲である。その展示会の主催者の方が、創作の糧となるよう舞台となった美保関一帯をご案内して下さいました。その際、美保神社へ立ち寄った際、ふと頭の中に音が鳴り始めた。これは面白いと感じ、道中も忘れないようにし、家に帰るなりすぐに音を書き留めた。そのモチーフを元にこの曲は作られている。神聖なる体験。

08. Eternity / エターニティ / 4:40

ふとした偶然がきっかけで知り合った、時を越えた友人。その友人の依頼によりこの曲は制作した。わたくしと二人で山へ登り、その山頂で風を感じながら、お互いの時を越えた楽しい感覚についてずっと語り合う。そんな曲を作って欲しいと依頼された。容易に想像できるその状況を頭の中に作り上げ、お気に入りの風の音をサウンドスケープとして用意し、それを聞きながらこの曲を作り上げた。出来上がった音を聴いた友人は深く納得をしてくれた。音楽家だけが体感できる最上の時間。

09. Cloudy / クラウディ / 6:53

3曲目の『Reincarnation』と対をなした双子の曲。ぼんやりと眺めていた朝の雲の動き。それをじっと見つめていた時に聞こえて来た音。それをモチーフにしこの曲を作り上げた。どんな状況下にあっても、雲は生まれ流れていく。意志もなくただ流れていく雲は、小さい頃からの犬のお気に入りの自然現象である。季節により移り変わり、何より人の心により存在に意味を持ち始める雲。美しい。

10. Reunion / リユニオン / 5:00

アルバムの最終曲としてもう一曲必要だと感じ、急速、制作を思い立つ。そんな慌ただしい感覚の中、まとも書き留めていたスケッチ、それも5分以上の即興の録音を偶然にも発掘。そのスケッチはほぼ曲として成立しており、後は楽譜に起こし、練習をし、レコーディングをすれば一曲が出来上がる状態にあった。急ピッチで作業を行い、数時間で完成させた。もう一度再会できる事を夢見つつ。

11. Requiem For Quiet - Piano ver. / レクイエム・フォー・クワイエット - ピアノバージョン / 6:42

『Requiem For Quiet』のピアノバージョン。オーケストラに編曲するために、まずはピアノ曲を初めに制作することがよくある。今回もその手法を用いて制作したのだが、ピアノ版もまたとても興味深い状態だったのでアルバムに収録した。面白い。

12. Empyrean Sphere - Piano ver. / エンピリアン・スフィア - ピアノバージョン / 4:43

2作目のプラネタリアム作品公開前。有楽町のプラネタリアムに設置されているピアノを演奏し『X』にて動画による宣伝をした。その動画で演奏したのがこの曲である。ピアノ一台でも成立しているのでアルバムに収録した。それにしてもプラネタリアムでの演奏はとても楽しく感じられた。良い体験と、良い思い出である。

Zero / Otoemon-ayahiro SUMI

[Email] m-note@siteotoemon.com

[siteotoemon] <https://www.siteotoemon.com>